

ロバート・マーチン インタビュー

※インターネットをつかってインタビュー

梅原：パンジーメディアの梅原義教です。

中山：ピープルファーストジャパンの会長の中山千秋です。

今日は楽しみにしています。

ロバート：コンニチハ

<国連障害者権利委員会について>

中山：障害者権利委員会はどんな活動をしているところですか。

ロバート：2006年に国連で、障害者権利条約が採択されました。

その条約を批准した国の活動状況を調査することです。

※国連障害者権利条約：166の国や地域が条約をむすんだ（2016年げんざい）

ロバート：各国の状況を把握し、見直すべき点などを具体的に話し合います。

※日本は2014年にひじゅん（条約をまもる ぎむがある）

中山：知的障害を持つロバートが委員に選ばれたのにはどんな意味がありますか。

ロバート：私が委員になることで、障害者の意見が反映されるように、強く働きかけることができます。それが、私が委員になる大きな意味です。

※2016年6月 ロバート・マーチンさんは知的障害者ではじめて委員にえられた

ロバート：私の役割は、障害者が地域社会で暮らすことができる。

そしてもう一つ、障害者が仕事や教育の機会を持てるようにすることです。

私は、教育は人間の基本的権利だと考えます。障害者が大学で学ぶことができる国は、まだまだ少ないのが現状です。

<国連障害者権利条約への関わりについて>

※障害者が地域社会でくらす権利を国連でうたったえる（2006年）

ロバート：2002年から国連で、障害者権利条約の草案作りに加わりました。

その時も、知的障害者の意見を、権利条約に盛り込むように、強く働きかけたのです。

中山：条約ができて、社会の中で障害者の状況はどう変わりましたか。

ロバート：障害者を取り巻く問題を考えたり、障害者が自分で決めるができるように、少しづつ前進していると言えます。
いくつかの国では改善されています。
しかし、多くの国では教育や仕事の問題など、まだまだやるべきことはあります。

＜子どもの頃のこと・入所施設について＞

※1957年 ニュージーランドで知的障害をもって生まれる。

ロバート：私は1歳半のときに、入所施設に入りました。
そして、子ども時代のほとんどを入所施設で過ごしました。
施設での暮らしは辛いものでした。
食事は粗末で、人として扱ってもらえませんでした。

ロバート：私たちは、服装や食事のメニュー、時間まで、全て決められていきました。
病気になっても、看病してもらえませんでした。とても辛い経験です。
15才で施設を出たあとも、家族との生活に慣れるのに苦労しました。

中山：私も入所施設に2年ぐらいいました。規則は厳しくて、恋愛も厳しかったです。

※日本ではおよそ12万人の知的障害をもつ人が入所施設に入れられている。
今も虐待が後をたたない。

中山：言うことを聞かなかつたら職員がなぐったりして。

ロバート：よくわかります。

梅原：ぼくも（入所施設に）いました。

ロバート：そうでしたか。今も日本では、多くの知的障害者は入所施設に入れられますね。

梅原：はい。そうです。

ロバート：私は、障害者も本人が望めば、交際や結婚ができると思いますよ。
私も28年前に結婚したんですよ。

※ロバート・マーチン、妻のリンダと1989年に結婚。

中山：私も今は結婚してグループホームで幸せに暮らしています。

梅原：日本はまだまだ（入所施設を）作っています。

どうやってなくしたらいいか教えて下さい。

ロバート：障害者が社会の一員として参加する必要があります。
これは非常に大切なことです。

入所施設があることで、障害者が地域や社会から引き離されてしまいます。

ニュージーランドでは、障害者が街に出てデモ行進をし、
政府に入所施設の閉鎖を求めました。

※障害者たちの運動が実をむすぶまで 20 年

ロバート：その結果、政府は入所施設の閉鎖を決め、2006 年になくなりました。

梅原：日本は（今も）入所施設を作っています。

ロバート：日本でも、入所施設をなくすことを進める必要があります。

障害者も他の人たちと同じように、地域の一員として生きる権利があるからです。

梅原：僕もそう思います。

ロバート：入所施設はもう必要ありません。

日本はなぜ、障害者を隔離しようとするのでしょうか。

ロバート：条約にも、障害者は地域の中で共に生きるべきと定義しています。

隔離しても上手く行かないことを、私たちは学ぶべきです。

<障害者権利条約 第 19 条（ようやく）>

すべての障害者が地域社会でくらす権利がある

- ・障害者は どこでだれと 生活するか えらぶことができる
- ・障害者は 地域生活に ひつような サービスを りょうできる
- ・地域社会のサービスや施設は 障害者のニーズに たいおうしなければならない

<ロバートから日本のなかまへのメッセージ>

梅原：日本のなかまへのメッセージをお願いします。

ロバート：みなさんが日本でメディアを使って、障害者について情報発信しているのは素晴らしいと思います。障害者を理解してもらう、前向きな一歩です。

障害者がいろんなことができると発信することは、とても大切です。

障害者への見方が変わることで、様々な問題を解決する方法が見つかるでしょう。

中山：ありがとうございました。入所施設や虐待をなくすためにがんばっていきます。

これからもよろしくお願ひします。